

鳴瀬川等大規模氾濫時の減災対策協議会・北上川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会に参加しました（2020/06/29）

テーマ：河川防災、台風・大雨災害

URL：http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/_upload/list/gensai.html

6月29日（月）、大郷町文化会館（宮城県大郷町）を会場にして、鳴瀬川等大規模氾濫時の減災対策協議会・北上川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会（いずれも第7回、合同）が開催されました。同協議会は、1986年8.5水害や2015年関東・東北豪雨を受けて、大規模な浸水被害が発生したことを踏まえて、鳴瀬川や北上川等における堤防の決壊や越水等に伴う大規模な浸水被害に備え、隣接する自治体や県、国等が連携して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するものです。

第7回となる同日には、15市町村の首長ら約30人が参加し、2019年台風19号（令和元年東日本台風）で被災した大郷町、大崎市、松島町からトップセミナーとして、当時の経験やその後の復興対応、そこから生まれた教訓に関する講演が実施されました。その後、当研究所の佐藤翔輔准教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）が「2019年台風19号における吉田川流域の避難行動とその教訓」というタイトルで、参加首長、国・県担当者向けに講演を行いました。トップセミナーと講演の後、参加首長らによる意見交換が行われ、佐藤翔輔准教授が総括を行いました。

会場は、参加者同士の間隔をとり、十分な換気をし、マイク等の消毒を徹底するなど、感染症対策が丹念に実施されました。各話題提供や意見交換において昨年の台風19号から多くの教訓が得られ、大変盛会となりました。



会場の様子